

8

令和5年度

主要な施策の成果に関する報告書

< その2 >

多賀城市まちづくり報告書

(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)

令和6年9月

多 賀 城 市

目 次

8<その2>

この報告書は、3分冊で構成されています。この冊子は「8<その2>」です。

IV 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)	1
1 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは	
(1) 施策別評価の概要	3
2 全体の動向	
(1) 将来都市像指標のうごき	4
(2) 指標全体のうごき(施策・基本事業別)	4
(3) 政策別の指標全体のうごき(施策・基本事業合計)	5
(4) 指標全体の目標達成度(施策・基本事業別)	6
(5) 政策別の指標全体の目標達成度(施策・基本事業合計)	7
3 施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)	
(1) 施策・基本事業評価の見方	8
政策1 みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり(安全安心)	11
政策2 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり(健康福祉)	23
政策3 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり(教育文化)	47
政策4 都市と自然の環境調和 快適で潤いのあるまちづくり(生活環境)	63
政策5 地域の資源と知恵をいかす 活気あふれるまちづくり(産業活気)	77
政策6 地域の未来を共に創る 絆と誇りを築くまちづくり(地域創生)	89
政策7 縮減社会への対応 持続可能な行財政経営(行財政経営)	97
(参考)多賀城市まちづくりアンケート調査結果<令和5年度実施>	109

この「主要な施策の成果に関する報告書」は、第六次多賀城市総合計画に基づく令和5年度の事業と決算のあらましについて、3分冊で構成されています。

7<その1>では、「各会計の決算概要」を掲載しており、あわせて参考資料も掲載しています。
8<その2>では、「多賀城市まちづくり報告書」として施策・基本事業の動向等を掲載しています。

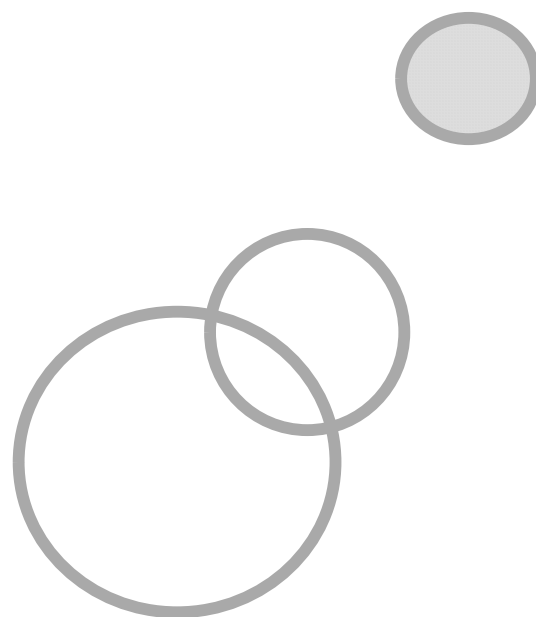
9<その3>では、実施計画事業及び主要事業の「事務事業評価表」を掲載しています。

この報告書は、市民と行政とがまちづくりの進み具合を共有するための資料として作成し、公表しています。

なお、すでに公表している令和4年度までの本報告書については、市ホームページでもご覧いただけます。

Ⅳ 多賀城市まちづくり報告書

（第六次多賀城市総合計画進捗状況報告）



Ⅳ 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)

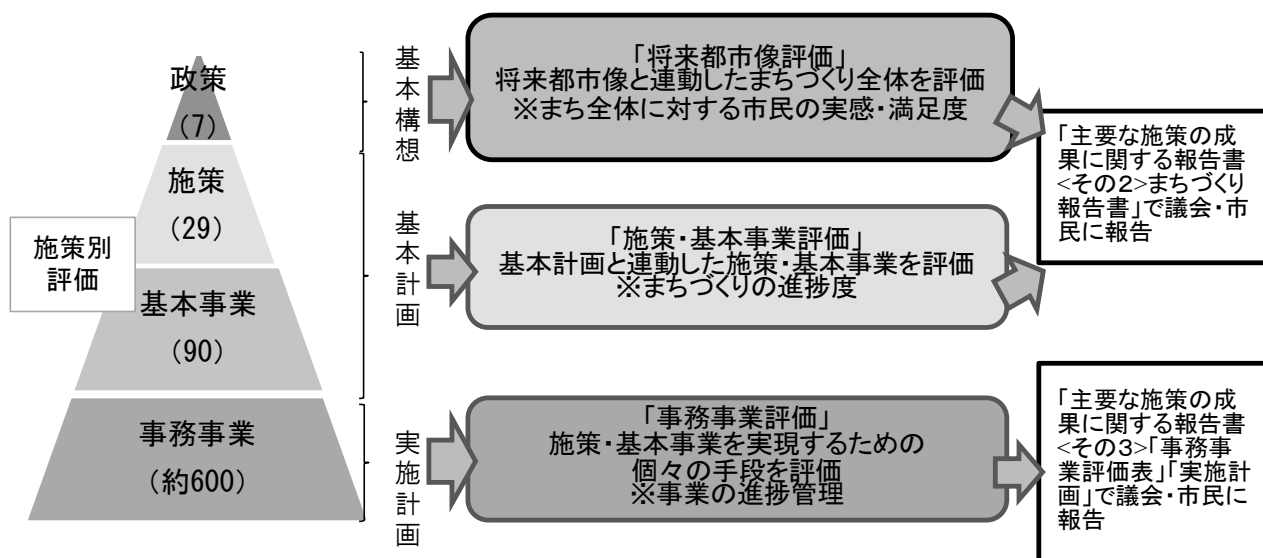
1 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは

多賀城市まちづくり報告書は、総合計画の目指すまちの姿の実現に向けて、まちづくりがどの程度進んでいるのか、事業の成果は上がっているのかといったことを示すため、令和5年度の決算を踏まえて、まちづくりの成果報告書として作成しています。

施策、基本事業における成果指標の推移を踏まえた成果状況等の結果を「施策別評価」として示すことで、総合計画の進捗状況等を明らかにしています。

また、複数年での指標の推移を確認することにより、指標のうごきが外的要因による突発的なものなのか、社会情勢の変化等による必然的なものなのかを見る目安となり、限られた行財政経営資源の「選択と集中」及び行政活動の「改革と改善」への活用が期待されます。

一般的には、事務事業の成果が向上することで基本事業の成果が向上し、基本事業の成果が向上することで施策の成果が向上する仕組みになっています。



(1) 施策別評価の概要

① 施策別評価とは

施策別評価は、階層分けした施策及び基本事業について、指標の推移を踏まえた成果状況やその原因分析等の評価結果を施策ごとに示すものであり、これにより総合計画の進捗状況等を明らかにするとともに、その評価結果を次の施策や事業展開に活かしていくこととしています。

施策や基本事業に対して、その目的がどの程度達成されたのかを測るものさしとして「指標」を設定し、成果状況を数値で表すことで、総合計画の進捗状況や事業の成果状況を客観的に把握し、分析していくこととしています。

② 指標のうごきからみるまちづくりの状況

施策・基本事業の指標の動向を前期基準値に対する「指標のうごき」で捉えるとともに、指標の令和7年度前期目標値に対する「目標達成度」を捉えることとし、これらをもとに総合計画の進捗状況を示しています。

2 全体の動向

(1) 将来都市像指標のうごき

本市の将来都市像「日々のよこびふくらむまち 史都 多賀城」実現に向けたまちづくり全体の達成状況とまち全体に対する市民の実感・満足度を測るものとして、次の指標を設定しています。



(2) 指標全体のうごき(施策・基本事業別)

指標のうごきは、指標の前期基準値からの推移状況をもとに下表のとおりです。「晴れ(向上)」、「晴れ(横ばい)」、「曇り(横ばい)」、「雨(低下)」の4段階の区分で表しています【9ページ「指標のうごき」参照】。

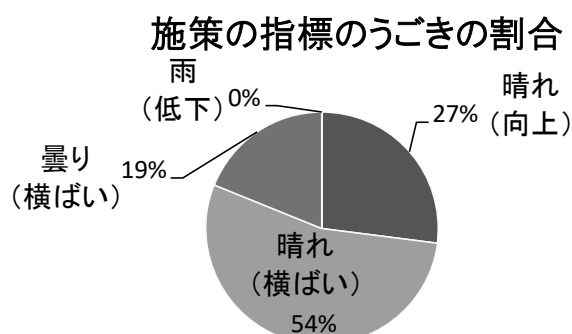
施策と基本事業の「指標のうごき」の状況は下図のとおりとなっています。

成果が向上している主な施策・基本事業の指標は、「教育・保育施設等の待機児童数(国定義)」、「障害者(児)がその適性や能力に応じて安心して暮らしていると思う割合」、「学校生活が楽しいと思う生徒割合(中学生)」、「授業がわかると答える生徒割合(中学生)」、「基本的生活習慣を身に付けている児童・生徒の割合(小学生・中学生)」、「文化芸術の直接鑑賞をしている市民割合」、「市の歴史と文化を身近に感じている市民割合」、「特定事業所の水質基準の達成割合」、「まちに賑わいがあると感じる市民割合」、「観光客入込数」、「歴史文化資源活用事業参加者数」、「ふれあいの場・機会への参加者数」、「経常収支比率(水道事業)」、「企業債残高対事業規模比率」、「Web上で手続き可能な業務数」です。

成果が低下している主な施策・基本事業の指標は、「災害用備蓄品の備蓄率」、「自分の子ども(乳幼児)に対して、育てにくさを感じている保護者割合」、「不登校出現率」、「性別や国籍等で差別されず、人権が尊重されるまちだと思う市民割合」、「情報漏えい事件数」、「単年度基礎的財政収支(プライマリーバランス)」です。

① 施策数、指標数及び指標のうごきの割合等

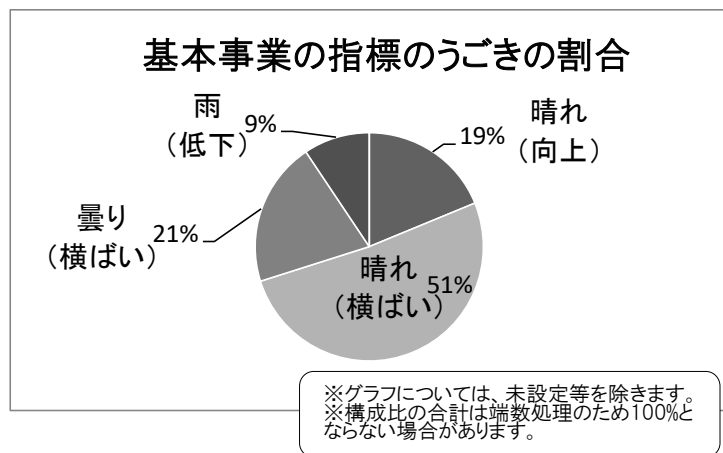
施策数	29
指標数	38
(内訳)	
晴れ(向上)	10
晴れ(横ばい)	20
曇り(横ばい)	7
雨(低下)	0
未設定等	1



※グラフについては、未設定等を除きます。
※構成比の合計は端数処理のため100%と
ならない場合があります。

②基本事業数、指標数及び指標のうごきの割合等

基本事業数	90
指標数	141
(内訳)	
晴れ(向上)	22
晴れ(横ばい)	60
曇り(横ばい)	24
雨(低下)	11
未設定等	24



(3) 政策別の指標全体のうごき(施策・基本事業合計)

① 全体の傾向

施策と基本事業の指標を「政策」ごとにまとめた政策別の指標のうごきの状況は下図のとおりとなっています。

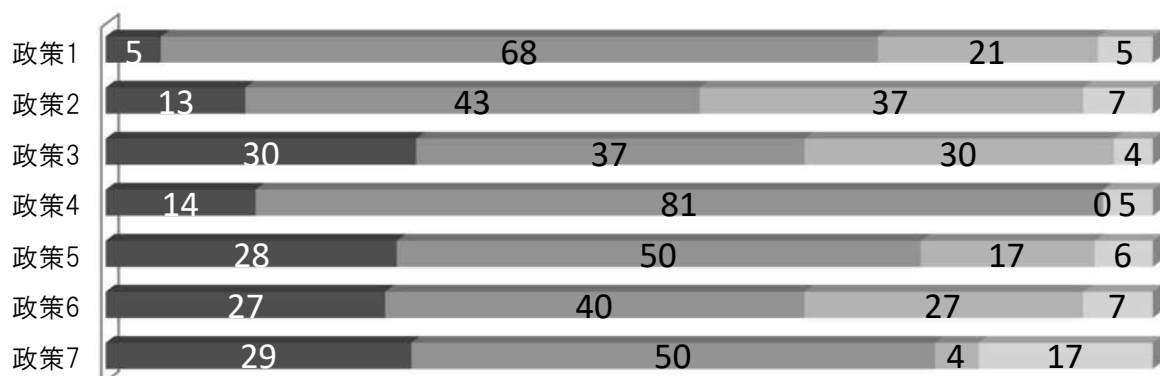
◎施策・基本事業の指標数及び指標のうごき

	晴れ(向上)	晴れ(横ばい)	曇り(横ばい)	雨(低下)	未設定等	計
政策1	1	13	4	1	1	20
政策2	4	13	11	2	12	42
政策3	8	10	8	1	2	29
政策4	3	17	0	1	5	26
政策5	5	9	3	1	0	18
政策6	4	6	4	1	0	15
政策7	7	12	1	4	5	29
計	32	80	31	11	25	179

単位:%

施策・基本事業の指標のうごきの割合(政策別)

■晴れ(向上) ■晴れ(横ばい) ■曇り(横ばい) ■雨(低下)



※グラフについては、未設定等を除きます。
※構成比の合計は端数処理のため100%
としない場合があります。

(4) 指標全体の目標達成度(施策・基本事業別)

指標の令和5年度における前期計画目標値への目標達成度を、「達成(前期目標値を達成しているもの)」、「高(令和6年度までに達成する可能性が高いもの)」、「中(令和7年度(前期目標年度)で達成する可能性が高いもの)」、「低(令和7年度(前期目標年度)で達成することが難しいもの)」の4段階の区分で表しています【9ページの目標達成度参照】。

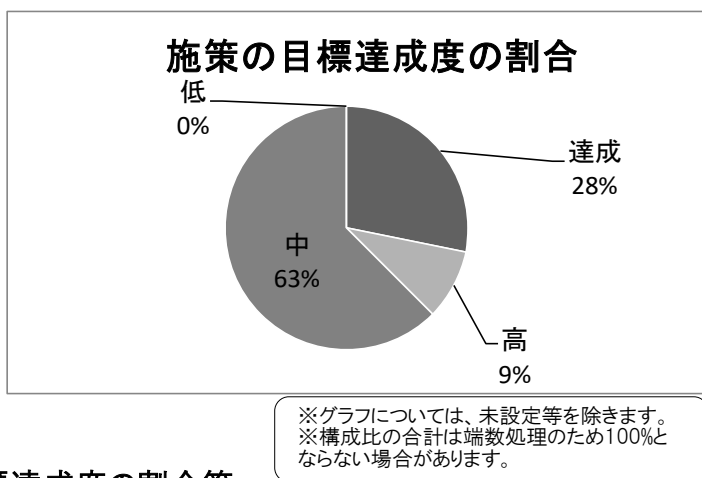
施策と基本事業の「目標達成度」の状況は、下図のとおりとなっています。

前期目標値を達成している主な施策・基本事業の指標は、「市民に災害経験を伝承する機会を設けた数」、「自立高齢者の割合」、「授業がわかると答える生徒割合(中学生)」、「基本的生活習慣を身に付けている児童・生徒の割合(小学生・中学生)」、「文化芸術の直接鑑賞をしている市民割合」、「市の歴史と文化を身近に感じている市民割合」、「市民1人当たり年間最終処分量(家庭ごみ)」、「水道管耐震化率」、「まちに賑わいがあると感じる市民割合」、「観光客入込数」、「ふれあいの場・機会への参加者数」、「企業債残高対事業規模比率」、「市税の収納率」、「ICTの活用により効率化が図られた業務数」です。

前期目標年度で達成することが難しいと見込まれる主な施策・基本事業の指標は、「教育・保育施設等の定員数」、「認知症の方への対応方法を知っている市民数」、「不登校出現率」、「市の創業支援を受けて創業した人の数(累計)」です。

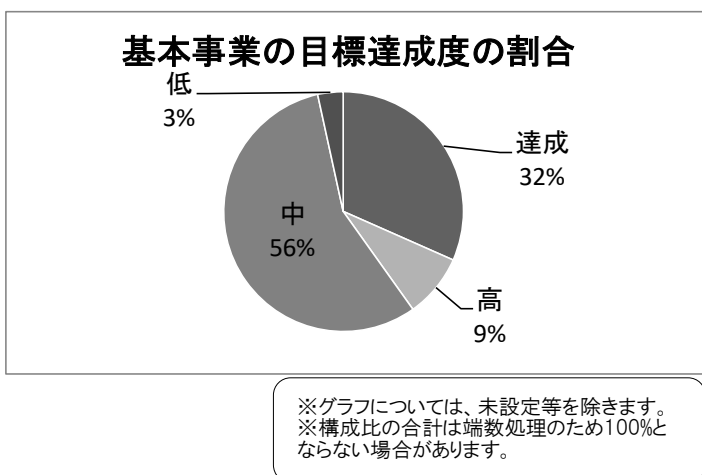
①施策数、指標数及び目標達成度の割合等

施策数	29
指標数	38
(内訳)	
達成	9
高	3
中	20
低	0
未設定等	6



②基本事業数、指標数及び目標達成度の割合等

基本事業数	90
指標数	141
(内訳)	
達成	37
高	10
中	66
低	4
未設定等	24



(5) 政策別の指標全体の目標達成度(施策・基本事業合計)

① 全体の傾向

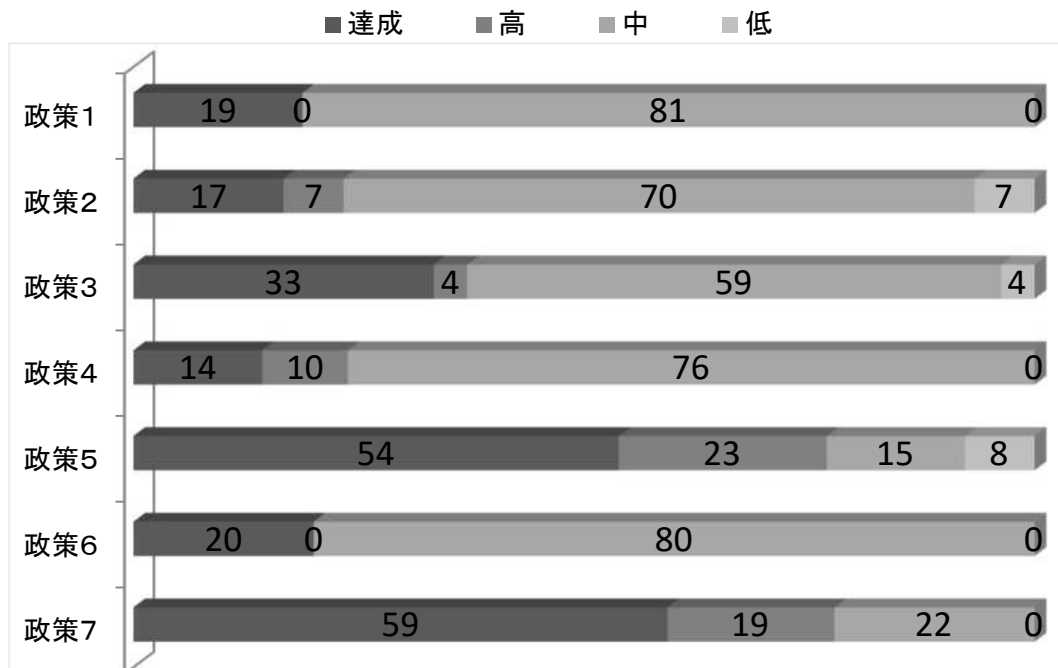
施策と基本事業の指標を「政策」ごとにまとめた政策別の目標達成度の状況は下表のとおりとなっています。

◎施策・基本事業の指標数及び目標達成度(政策別)

	達成	高	中	低	未設定等	計
政策1	3	0	13	0	4	20
政策2	5	2	21	2	12	42
政策3	9	1	16	1	2	29
政策4	3	2	16	0	5	26
政策5	7	3	2	1	5	18
政策6	3	0	12	0	0	15
政策7	16	5	6	0	2	29
全体	46	13	86	4	30	179

単位:%

施策・基本事業の目標達成度の割合(政策別)



※グラフについては、未設定等を除きます。
 ※構成比の合計は端数処理のため100%とならない場合があります。

3 施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)

(1) 施策・基本事業評価の見方

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり

施策 01 防災・減災対策の推進

施策の成果状況は、左側のページとなるよう調整しています。

施策の目指す姿

大規模災害の経験をいかし、みんなの力で災害に強いまちが形成されることで、安全・安心に暮らすことができます。

【指標の区分】

目指す姿の実現具合を測るものとして設定している指標は、その特性により次の3つに区分しています。

成果: 目指す姿の達成度を示すもの

社会: 事業状況を指標化したものの、行政の関与よりも社会経済情勢等の影響が大きいもの

代替: 成果の指標化が難しい場合に、代替指標として行政の活動量等を設定したもの

【取得方法】

市民アンケート: 毎年定期的に市民3,000人を対象に行う多賀城市まちづくりアンケートにより取得する方法

職員アンケート: 毎年定期的に職員を対象に行うアンケートにより取得する方法

業務取得: 業務内で取得する方法

課独自調査: 指標を取得するために各課等が行うアンケート等により取得する方法

【指標特性】

上がると良い: 数値が上がると良い指標

下がると良い: 数値が下がると良い指標

その他: 数値の増減で良し悪しを判断できない指標

【担当部署】令和6年度担当部署を記載しています。

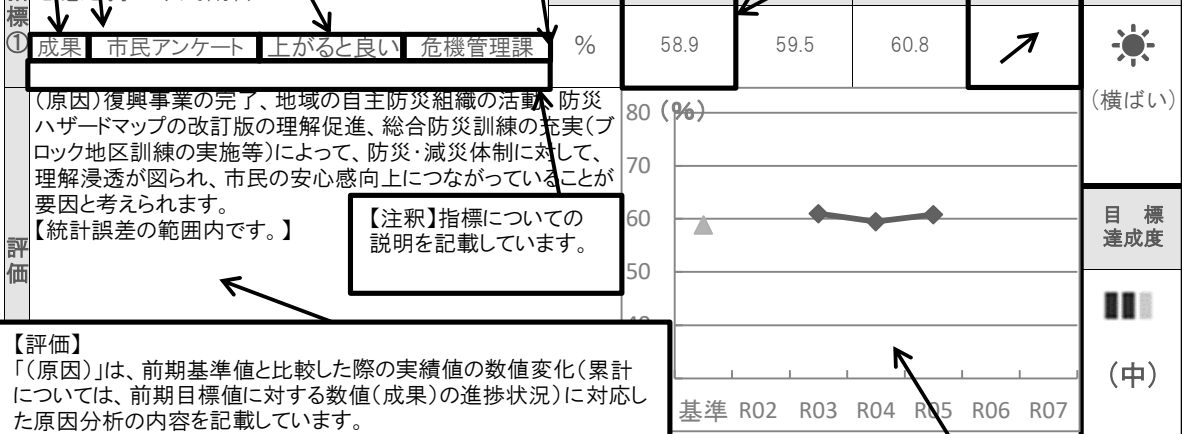
【前期基準値】

原則として、次のような取得年度となっています。これ以外の年度に取得している場合には、評価欄に記載しています。

市民アンケート、職員アンケート指標: 令和2年度に取得
業務取得、課独自調査指標: 平成31年度に取得

施策の成果状況と評価

まち(市民、地域、行政)の防災・減災体制に安心感を持つ市民割合



【評価】
「(原因)」は、前期基準値と比較した際の実績値の数値変化(累計については、前期目標値に対する数値(成果)の進捗状況)に対応した原因分析の内容を記載しています。
また、市民アンケートに係る統計誤差及び前期基準値を原則以外の年度に取得した旨についても、記載しています。

【掲載している施策・基本事業は、掲載例です。実際の内容とは異なります。】

基本事業の成果状況は、はじめりが右側のページとなるよう調整しています。

施策評価と見方は一緒です。

基本事業01 地域防災力の促進(自助・共助)																								
指標 ①	災害への備えをしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき														
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	54.8	53.2	56.8																
	災害への備えを4つ以上していると回答した市民割合																							
評価	(原因)防災ハザードマップ改訂に伴う住民説明会や防災講話(出前講座)の実施、総合防災訓練などを通じて、市民の防災意識を喚起する機会が増えたことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】					<table border="1"><caption>防災意識喚起の機会に関する数値</caption><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>54.8</td></tr><tr><td>R03</td><td>54.8</td></tr><tr><td>R04</td><td>53.2</td></tr><tr><td>R05</td><td>56.8</td></tr><tr><td>R06</td><td>56.8</td></tr><tr><td>R07</td><td>56.8</td></tr></tbody></table>				項目	値	基準	54.8	R03	54.8	R04	53.2	R05	56.8	R06	56.8	R07	56.8	(横ばい)
	項目	値																						
	基準	54.8																						
R03	54.8																							
R04	53.2																							
R05	56.8																							
R06	56.8																							
R07	56.8																							
						目 標 達成度																		
										(中)														

【目標値】
目標値は、次の3つのパターンで表しています。
数値: 業務データから現状値を把握するもの
矢印: 目標値を数値で表しにくいもの(アンケートによる把握、取得方法変更等)と現状維持のもの
※アンケート指標については、統計誤差の関係があるため、方向性を矢印で表しています。
ー : 指標区分が「社会」のもの及び目標設定がなじまないもの

【指標のうごき】
前期基準値(又は取得初年度)と比較した際の令和5年度の成果指標のうごきを、次の区分により示しています。
なお、市民アンケートから数値を取得しているものは、一定の統計誤差を考慮しています。
☀ (向上): 数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ向上しているもの
☀ (横ばい): 数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ微向上(横ばい)であるもの
☀ (横ばい): 数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ微低下(横ばい)であるもの
☀ (低下): 数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ低下しているもの
☀ : 累計以外で前期基準値がないもの、令和5年度に実績値がないもの、指標特性が「その他」のもの、取得初年度のもの
※累計については、目標値に対する数値(成果)の進捗状況に応じて、区分しています。

【目標達成度】
成果指標の前期目標値への令和7年度(前期目標年度)を基準とした、達成度見込みを示しています。
🏰 (達成): 前期目標値を達成しているもの
■ ■ ■ (高): 令和6年度までに達成する可能性が高いもの
■ ■ ■ (中): 令和7年度(前期目標年度)で達成する可能性が高いもの
■ ■ ■ (低): 令和7年度(前期目標年度)で達成することが難しいもの
ー : 前期目標値が「一」のもの、令和5年度に実績値がないもの

政策1

みんなの力で減災 安全で安心して暮らせるまちづくり
(安全安心)

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり

施策 01 防災・減災対策の推進

施策の目指す姿

大規模災害の経験をいかし、みんなの力で災害に強いまちが形成されることで、安全・安心に暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	まち(市民、地域、行政)の防災・減災体制に安心感を持つ市民割合			単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	58.9	59.5	60.8	
評価	(原因)復興事業の完了、地域の自主防災組織の活動、防災ハザードマップの改訂版の理解促進、総合防災訓練の充実(ブロック地区訓練の実施等)によって、防災・減災体制に対して、理解浸透が図られ、市民の安心感向上につながっていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】								(横ばい)
									目標達成度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 地域防災力の促進（自助・共助）

指標①	災害への備えをしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	54.8	53.2	56.8	→	
評価	災害への備えを4つ以上準備していると回答した市民割合									 目標 達成度 (中)
	(原因) 防災ハザードマップ改訂に伴う住民説明会や防災講話(出前講座)の実施、総合防災訓練などを通じて、市民の防災意識を喚起する機会が増えたことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									

基本事業01 地域防災力の促進（自助・共助）

指標②	災害時に地域で助け合いができると思う市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	57.4	57.6	59.1	→	
評価										 目標 達成度 (中)
	(原因) 総合防災訓練を通じて、地域の自主防災組織の活動機会が創出されたことで、共助の意識が高まったことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									

基本事業02 公的機関防災体制の確保（公助）

指標①	災害時に職員として果たすべき役割や初動を理解している職員割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	職員アンケート	上がると良い	危機管理課	%	100	98.7	98.3	→	
評価										 目標 達成度 (中)
	(原因) ほぼすべての職員が、災害時に行うべき初動体制や果たすべき役割について、総合防災訓練や現地班員研修などを通じて理解浸透が図られたことが要因と考えられます。									

基本事業02 公的機関防災体制の確保（公助）

指標②	災害用備蓄品の備蓄率				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	危機管理課	%	100	100	70	→	
評価	必要数を超えている場合、備蓄率は100%と表現									 目標 達成度 (中)
	(原因) 災害用備蓄食料については、令和5年度において備蓄数量の計画見直しを図り、これまで72,000食(12,000人×2食×3日)としていたものを198,000食(22,000人×3食×3日)とし、これにより現在保有している備蓄食料数の割合が減じたことが要因です。									

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 災害経験の伝承

指標①	市民に災害経験を伝承する機会を設けた数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	危機管理課	回/年	5	3	8	5	
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、災害経験を伝承するイベント等を開催する機会が回復したことが要因と考えられます。				(回/年)					(横ばい)
										(達成)

基本事業03 災害経験の伝承

指標②	災害の経験を周囲に伝えている市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	69.2	66.2	70.7	➔	
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、出前講座等を通常規模で実施したことや防災ジオラマの展示等の活動、令和6年能登半島地震をきっかけに、当時の災害経験を周囲に伝える機会が増えたことなどが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%)					(横ばい)
										(中)

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心して暮らせるまちづくり

施策 02 防犯対策の推進

施策の目指す姿

犯罪に関する総合的な取組が進み、市民一人ひとりの防犯意識が高まることで、みんなの力で犯罪に遭わない、起こさせない地域が形成され、安全・安心して暮らすことができています。

施策の成果状況と評価

指標①	刑法犯認知件数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき														
	社会	業務取得	下がると良い	危機管理課	件/年	480	260	382	—	☀️ (横ばい) 目標達成度 ---														
評価	暦年での件数				(件/年) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>480</td></tr><tr><td>R03</td><td>260</td></tr><tr><td>R04</td><td>260</td></tr><tr><td>R05</td><td>382</td></tr><tr><td>R06</td><td>-</td></tr><tr><td>R07</td><td>-</td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	480	R03	260	R04	260	R05	382	R06	-	R07	-
	項目	値																						
基準	480																							
R03	260																							
R04	260																							
R05	382																							
R06	-																							
R07	-																							
	(原因) 防犯ボランティア・警察と連携した地域のパトロールや、乗物盗を減少させるための定期的な活動を従来どおり行ったことが要因と考えられます。																							

指標②	犯罪が少なく、安心して暮らせる地域になっていると思う市民割合				単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標のうごき										
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	79.2	78.9	81.7	➔	☀️ (横ばい) 目標達成度 ■■ (中)										
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、地域のボランティアの見守り活動や防犯パトロール等といった活動の制限が緩和され、通常規模に戻ってきたことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>79.2</td></tr><tr><td>R03</td><td>78.9</td></tr><tr><td>R04</td><td>78.9</td></tr><tr><td>R05</td><td>81.7</td></tr></tbody></table>						項目	値 (%)	基準	79.2	R03	78.9	R04	78.9	R05	81.7
項目	値 (%)																			
基準	79.2																			
R03	78.9																			
R04	78.9																			
R05	81.7																			

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 地域ぐるみでの防犯体制の促進

指標①	防犯対策に取り組んでいる市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	70.9	67.4	69.8	➔	
評価	防犯対策を2つ以上していると回答した市民割合									(横ばい)
	(原因) 自宅の戸締りについては、大半の市民が実施しているものの、それ以外の対策に取り組んでいる割合が低くなっていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標達成度 (中)

基本事業01 地域ぐるみでの防犯体制の促進

指標②	防犯活動に取り組んでいる市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	24.6	24.5	24.7	➔	
評価	防犯活動に取り組んでいる市民割合									(横ばい)
	(原因) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、防犯パトロールや防犯講習会などといった防犯活動の制限緩和が進んだことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標達成度 (中)

基本事業02 防犯機能を有する施設・設備の保全と整備

指標①	防犯機能を有する施設・設備の整備件数 (累計)				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	危機管理課	件	—	17	25	60	
評価	前期目標値及び実績値は、令和3年度を初年度とする5年間の累計。防犯街路灯と防犯カメラの合計									目標達成度 (中)
	(原因) 防犯街路灯補助制度によって、自主的に防犯機能を有する施設や設備を設置する地域が増加していることが要因です。									

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり

施策 03 安全な消費生活の確保

施策の目指す姿

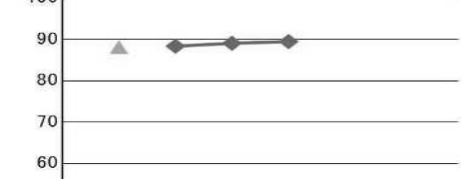
消費生活に関する知識を深めることで自立した消費者が増え、かつ、相談体制を整備することで消費者トラブルが減少し、安全で安心な消費生活を営むことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	消費者トラブルに遭った市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	下がると良い	地域コミュニティ課	%	9	10.6	11.9	➔	
評価	(原因) 消費者トラブルは複雑・多様化している中で、電話勧誘販売によるトラブルが最も多くなっています。手口が、悪質・巧妙化しており、既存の対応策や注意方法では回避しにくいことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									 目標達成度

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 消費生活情報の発信

指標①	消費者トラブルに関する対応を知っている市民割合				単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標のうごき															
	成果	市民アンケート	上がると良い	地域コミュニティ課	%	88.2	89.1	89.5	➡																
評価					(%)  <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>88.2</td></tr><tr><td>R03</td><td>89.1</td></tr><tr><td>R04</td><td>89.5</td></tr><tr><td>R05</td><td>89.5</td></tr><tr><td>R06</td><td>-</td></tr><tr><td>R07</td><td>-</td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	88.2	R03	89.1	R04	89.5	R05	89.5	R06	-	R07	-	☀ (横ばい)
	項目	値																							
基準	88.2																								
R03	89.1																								
R04	89.5																								
R05	89.5																								
R06	-																								
R07	-																								
	(原因) 新型コロナウイルス感染症の影響により令和2、3年度は開催できなかったトラブルから身を守るための消費者講座や出前講座を令和4年度から再開したことに加え、昨今のメディアによる報道の機会が増えたことや、市ホームページ、広報多賀城等で啓発に努めたことにより消費者側の関心が高まってきたことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】										目 標 達成度 ■ ■ (中)														

基本事業02 消費生活相談の推進

指標①	消費者相談で解決策を提示した割合				単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標の うごき																
	成果	業務取得	上がると良い	地域コミュニティ課	%	100	100	100	➡																	
評価	他機関への紹介を含む。				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>100</td></tr><tr><td>R03</td><td>100</td></tr><tr><td>R04</td><td>100</td></tr><tr><td>R05</td><td>100</td></tr><tr><td>R06</td><td>-</td></tr><tr><td>R07</td><td>-</td></tr></tbody></table>						項目	値 (%)	基準	100	R03	100	R04	100	R05	100	R06	-	R07	-		(横ばい)
	項目	値 (%)																								
	基準	100																								
R03	100																									
R04	100																									
R05	100																									
R06	-																									
R07	-																									
(原因) 相談のあった消費生活相談の全てに他機関への紹介を含む解決策を提示しています。消費生活相談員が研修会への積極的な参加や、参考図書等での事例案件を整理することで、個々の相談解決スキルの向上が図られていることが要因と考えられます。					目標 達成度																					
											(達成)															

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心して暮らせるまちづくり

施策 04 交通安全対策の推進

施策の目指す姿

市民一人ひとりの交通安全意識とまちの交通安全環境を良好に保つことで、交通事故が減少し、安全・安心に暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標①	交通事故発生件数（人身事故）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	社会	業務取得	下がると良い	危機管理課	件/年	178	129	123	—	☀ (向上)
評価	暦年での件数				(件/年)					目標 達成度
	(原因) 警察による取り締まりや交通安全関係団体と連携した啓発活動により市民一人ひとりの交通安全に対する意識が高まっていることが要因と考えられます。									—

指標②	市民が第1当事者となった交通事故発生件数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	社会	業務取得	下がると良い	危機管理課	件/年	169	114	120	—	☀ (横ばい)
評価	暦年での件数				(件/年)					目標 達成度
	(原因) 警察による取り締まりや交通安全関係団体と連携した啓発活動により市民一人ひとりの交通安全に対する意識が高まっていることが要因と考えられます。									—

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 交通安全情報の発信

指標①	交通安全啓発活動人数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	危機管理課	人/年	8,528	5,273	7,220	→	(横ばい)
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、各種啓発活動を徐々に開催したものの、基準値時の規模に至らなかったことが要因です。									目標達成度 (中)

基本事業01 交通安全情報の発信

指標②	飲酒運転検挙者数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	社会	業務取得	下がると良い	危機管理課	人/年	13	13	6	—	(横ばい)
評価	暦年での件数									目標達成度 —
	(原因) 飲酒運転の根絶に向けて、交通安全関係団体、塩釜警察署、仙台育英学園等と連携し、継続的に交通安全啓発活動を行ったことが要因と考えられます。									

基本事業02 交通安全環境の保全と整備

指標①	交通安全施設整備率				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	都市整備課	%	100	100	100	100	(横ばい)
評価	(原因) 定期的な道路パトロールによる危険箇所の発見、安全施設設置要望があった場合には、設置基準に基づき迅速な対応の実施及び通学路の路面標示や区画線等を適正に整備していることが要因です。									目標達成度 (達成)

政策2

健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

(健康福祉)

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 01 地域福祉の推進

施策の目指す姿

地域で助け合い、支え合いができる環境が整うことで、誰もが心豊かで安心して暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	地域で手助けしたり、されたりする環境が整っていると思う市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	46.1	43.3	46.5	➔	☀ (横ばい)
評価	(原因) 40代以上の割合が高い傾向がみられます。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、イベントや交流を通じて、あらためて地域での支え合いを感じた人が増えたことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標 達成度
										■ ■ (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 地域福祉意識の醸成と多様な担い手の育成支援

指標 ①	福祉活動に取り組む意識がある市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	50.3	51.6	49.1	➔	
評価	福祉活動とは、手助けしたり助け合う取組です。				(%) 基準 R03 R04 R05 R06 R07					
	(原因) 20代及び30代の世代において福祉活動への関心が薄く参加の意向のない方が増えたことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									
価値					目標 達成度 ■■ (中)					

基本事業01 地域福祉意識の醸成と多様な担い手の育成支援

指標②	福祉活動に取り組んだことがある市民割合				単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標の うごき														
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	8.4	9.5	9.4	➔															
評価	福祉活動とは、手助けしたり助け合う取組です。				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>8.4</td></tr><tr><td>R03</td><td>9.5</td></tr><tr><td>R04</td><td>9.4</td></tr><tr><td>R05</td><td>9.4</td></tr><tr><td>R06</td><td>-</td></tr><tr><td>R07</td><td>-</td></tr></tbody></table>					項目	値 (%)	基準	8.4	R03	9.5	R04	9.4	R05	9.4	R06	-	R07	-	☀ (横ばい)
	項目	値 (%)																						
基準	8.4																							
R03	9.5																							
R04	9.4																							
R05	9.4																							
R06	-																							
R07	-																							
	(原因) 60代の世代で、福祉活動を行っている方が増加しました。地域社会でのつながりや生きがいとして福祉活動に参加する方が増加したことが要因の1つと考えられます。【統計誤差の範囲内です。】									目標 達成度 ■■ (中)														

基本事業02 地域で見守り合う仕組みづくり

指標 ①	要配慮者を助け合う仕組みが整っていると思う市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき														
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	24	21.9	22.3	➔															
評価					(%) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>24</td></tr><tr><td>R03</td><td>21.9</td></tr><tr><td>R04</td><td>22.3</td></tr><tr><td>R05</td><td>22.3</td></tr><tr><td>R06</td><td></td></tr><tr><td>R07</td><td></td></tr></tbody></table>					項目	値	基準	24	R03	21.9	R04	22.3	R05	22.3	R06		R07		☁ (横ばい)
	項目	値																						
基準	24																							
R03	21.9																							
R04	22.3																							
R05	22.3																							
R06																								
R07																								
(原因) 20代及び30代の世代で、要配慮者を助け合う仕組みが整っていると感じている割合が低くなっています。また、「わからない」と回答した方が約3割近くおり、地域で助け合う仕組みやその必要性が共有できていないことも要因の1つと考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標 達成度 ■■ (中)															

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 02 健康づくりの促進

施策の目指す姿

一人ひとりが自らの健康管理や病気などの予防に取り組むことで、健康に暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	自分が健康だと思う市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき														
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	%	76.7	76.4	74.4	➔															
評価	(原因) 年齢を増すごとに減少する傾向が見られ、高齢化に伴って全体の割合も減少していることが要因と考えられます。健康観は体力や疾病ばかりではなく、年齢に伴う衰えによる健康不安が影響しているものと考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>76.7</td></tr><tr><td>R03</td><td>76.4</td></tr><tr><td>R04</td><td>76.4</td></tr><tr><td>R05</td><td>74.4</td></tr><tr><td>R06</td><td>-</td></tr><tr><td>R07</td><td>-</td></tr></tbody></table>					項目	値 (%)	基準	76.7	R03	76.4	R04	76.4	R05	74.4	R06	-	R07	-	(横ばい)
										項目	値 (%)													
基準	76.7																							
R03	76.4																							
R04	76.4																							
R05	74.4																							
R06	-																							
R07	-																							
										目標 達成度														
										■ (中)														

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 生活習慣の改善

指標①	健康に良い生活習慣の平均実践項目数			単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	項目	5.72	5.54	5.72	➔
評価	全12項目中			(項目) 目標達成度 ■■ (中)					
	(原因) 新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、各種事業が再開し、市民に生活習慣の改善を直接呼びかける機会が増えたことが要因と考えられます。一方で、「趣味や地域の活動に積極的に参加している」と回答した方の割合が伸びておらず、新型コロナウイルス感染症の影響が向上につながらないものと考えられます。								

基本事業01 生活習慣の改善

指標②	毎日朝食をとっている市民割合			単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標のうごき														
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	%	71.8	69.2	73.7	➔														
評価	(原因) 朝食の大切さに関する普及啓発を強化したことが要因と考えられます。一方で、時間的余裕が少ない若い世代の割合が低く、大きな伸びにつながらない状況にあります。 【統計誤差の範囲内です。】				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>71.8</td></tr><tr><td>R03</td><td>69.2</td></tr><tr><td>R04</td><td>69.2</td></tr><tr><td>R05</td><td>73.7</td></tr><tr><td>R06</td><td>-</td></tr><tr><td>R07</td><td>-</td></tr></tbody></table> ■ (中)					項目	値 (%)	基準	71.8	R03	69.2	R04	69.2	R05	73.7	R06	-	R07	-
										項目	値 (%)												
基準	71.8																						
R03	69.2																						
R04	69.2																						
R05	73.7																						
R06	-																						
R07	-																						

基本事業02 疾病予防・早期発見・早期治療等の推進

指標①	定期的に健康診査を受けている市民割合			単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき														
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	%	79.1	78	78.3	➔														
評価	(原因) 年齢とともに健康への関心が高まるため受診率が上がる一方、高齢になるにつれ持病でかかりつけ医を定期受診をしていることで健康診査は不要と誤解する方が多くなっていることが、要因の1つと考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>79.1</td></tr><tr><td>R03</td><td>78</td></tr><tr><td>R04</td><td>78</td></tr><tr><td>R05</td><td>78.3</td></tr><tr><td>R06</td><td>-</td></tr><tr><td>R07</td><td>-</td></tr></tbody></table>				項目	値 (%)	基準	79.1	R03	78	R04	78	R05	78.3	R06	-	R07	-	
									項目	値 (%)													
基準	79.1																						
R03	78																						
R04	78																						
R05	78.3																						
R06	-																						
R07	-																						
								目標達成度															

基本事業02 疾病予防・早期発見・早期治療等の推進

指標②	各種がん検診を受けている市民割合			単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき														
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	%	63	62.7	67.4	➔														
評価	(原因) SNS等を活用した各種がん検診等の受診勧奨やメディアからの情報など、普及啓発手段を多様化していることで、気づきの機会を増やしていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>63</td></tr><tr><td>R03</td><td>62.7</td></tr><tr><td>R04</td><td>62.7</td></tr><tr><td>R05</td><td>67.4</td></tr><tr><td>R06</td><td>-</td></tr><tr><td>R07</td><td>-</td></tr></tbody></table>				項目	値 (%)	基準	63	R03	62.7	R04	62.7	R05	67.4	R06	-	R07	-	☀️ (横ばい)
									項目	値 (%)													
基準	63																						
R03	62.7																						
R04	62.7																						
R05	67.4																						
R06	-																						
R07	-																						
					目標達成度				■■ (中)														

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 母子保健の充実

指標①	乳幼児健診の平均受診率				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき															
	成果	業務取得	上がると良い	子ども家庭課	%	98.6	97.7	96.6	➡																
評価	指標は、集団健診の平均受診率です(個別受診数を含みません。)				(%) <table><thead><tr><th>年次</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>98.6</td></tr><tr><td>R03</td><td>97.7</td></tr><tr><td>R04</td><td>97.7</td></tr><tr><td>R05</td><td>96.6</td></tr><tr><td>R06</td><td>96.6</td></tr><tr><td>R07</td><td>96.6</td></tr></tbody></table>						年次	値	基準	98.6	R03	97.7	R04	97.7	R05	96.6	R06	96.6	R07	96.6	☁ (横ばい)
	年次	値																							
基準	98.6																								
R03	97.7																								
R04	97.7																								
R05	96.6																								
R06	96.6																								
R07	96.6																								
	(原因) インフルエンザや嘔吐下痢症などの季節性感染症の流行により健診当日に欠席し、年度をまたいだ受診日変更をするケース等が発生したことが要因と考えられます。									■■ (中)															

基本事業03 母子保健の充実

指標②	出産後の支援について満足している者の割合				単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標のうごき														
	成果	課独自調査	上がると良い	子ども家庭課	%	90.9	82	83.8	➡															
評価	3～4か月児健診時のアンケート調査結果				(%) <table><thead><tr><th>年次</th><th>満足している者の割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>90.9</td></tr><tr><td>R03</td><td>82</td></tr><tr><td>R04</td><td>82</td></tr><tr><td>R05</td><td>83.8</td></tr><tr><td>R06</td><td>83.8</td></tr><tr><td>R07</td><td>83.8</td></tr></tbody></table>					年次	満足している者の割合 (%)	基準	90.9	R03	82	R04	82	R05	83.8	R06	83.8	R07	83.8	☁ (横ばい)
	年次	満足している者の割合 (%)																						
	基準	90.9																						
R03	82																							
R04	82																							
R05	83.8																							
R06	83.8																							
R07	83.8																							
(原因) 出産後の支援として伴走型相談支援や産後ケア事業を実施していますが、基準値より満足度は低い状況になっています。一方で産後ケア事業を拡充したことにより、令和4年度よりも改善しています。				目 標 達成度																				
価										■■ (中)														

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 03 子育て支援の充実

施策の目指す姿

子どもの育ちや子育て家庭を支える地域社会が形成されることで、不安なく子育てを行い、子ども一人ひとりが健やかに育つことができています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	子育てしやすいまちであると思う保護者割合			単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	子ども政策課	%	46.1	55.5	47.3	
評価	中学生以下の子どもの保護者対象								(横ばい)
	(原因) 子ども医療費助成の所得制限撤廃等により子育ての経済負担が軽減されたことや、教育・保育施設等の定員数が増加したことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】								目標達成度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 親子の健やかな育ちの支援

指標①	成果	市民アンケート	上がると良い	子ども家庭課	単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	妊娠や出産、子育てに関する市の相談窓口を知っている保護者の割合				%	86.4	77.4	79.4	➔	傘 (低下)
評価	小学生までの子どもを持つ保護者対象									目 標 達成度 ■ (中)

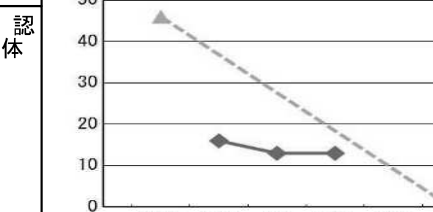
基本事業01 親子の健やかな育ちの支援

指標②	成果	課独自調査	下がると良い	子ども家庭課	単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	自分の子ども(乳幼児)に対して、育てにくさを感じている保護者割合				%	20.7	23.2	27.1	➔	傘 (低下)
評価	3歳児健診時のアンケート調査結果									目 標 達成度 ■ (中)

基本事業02 地域における子ども・子育て支援の充実

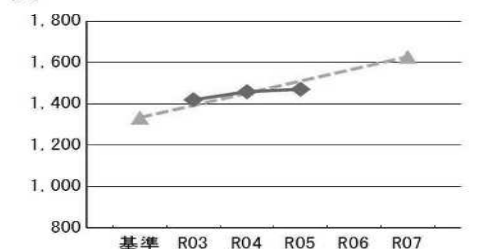
指標①	地域子育て支援拠点の利用者数					単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき															
	代替	業務取得	上がると良い	子ども政策課		人/年	52,099	41,789	51,501	55,000	☁️ (横ばい) 目標達成度 ■ (中)															
評価	(原因) 利用者は徐々に増加傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの規模縮小などが要因と考えられます。					(人/年) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>52,099</td></tr><tr><td>R03</td><td>41,789</td></tr><tr><td>R04</td><td>41,789</td></tr><tr><td>R05</td><td>51,501</td></tr><tr><td>R06</td><td>51,501</td></tr><tr><td>R07</td><td>55,000</td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	52,099	R03	41,789	R04	41,789	R05	51,501	R06	51,501	R07	55,000	
項目	値																									
基準	52,099																									
R03	41,789																									
R04	41,789																									
R05	51,501																									
R06	51,501																									
R07	55,000																									

基本事業03 安定した保育の提供

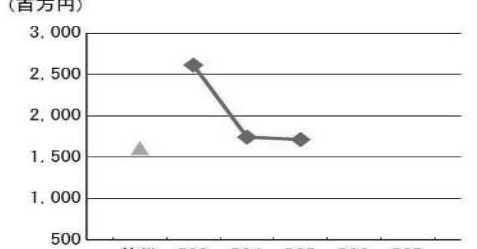
指標 ①	教育・保育施設等の待機児童数（国定義）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	子ども政策課	人	46	13	13	0	 (向上)
	各年度4月1日現在の数値									
評価	(原因) 教育・保育施設等の開設や定員増となった施設、認定こども園に移行した幼稚園等があったことにより、全体の定員数が増加していることが要因です。									

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 安定した保育の提供

指標②	教育・保育施設等の定員数				単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	子ども政策課	人	1,334	1,459	1,471	1,628	 (向上)
	各年度4月1日現在の数値				(人) 					
評価	(原因) 教育・保育施設等の開設や定員増となった施設、認定こども園に移行した幼稚園等があったことが要因です。									目標 達成度  (低)

基本事業04 子育ての経済的負担の軽減

指標①	子育ての経済負担の軽減総額				単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標の うごき															
	代替	業務取得	その他	子ども政策課	百万円	1,612	1,744	1,715	—																
評価					(百万円)  <table><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>1,612</td></tr><tr><td>R03</td><td>2,500</td></tr><tr><td>R04</td><td>1,744</td></tr><tr><td>R05</td><td>1,715</td></tr><tr><td>R06</td><td>1,715</td></tr><tr><td>R07</td><td>1,715</td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	1,612	R03	2,500	R04	1,744	R05	1,715	R06	1,715	R07	1,715	—
	項目	値																							
基準	1,612																								
R03	2,500																								
R04	1,744																								
R05	1,715																								
R06	1,715																								
R07	1,715																								
	(原因) 子ども医療費助成の所得制限撤廃や低所得子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金等の各種給付金の実施が要因です。子育て応援臨時給付金給付事業が終了したことで、令和4年度より減額しています。				目標 達成度						—														

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 04 高齢者福祉の推進

施策の目指す姿

高齢者が自立し、いきいきと活躍できる社会が形成されることで、生涯にわたり安心してその人らしく暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	自立高齢者の割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき													
	成果	業務取得	上がると良い	介護・障害福祉課	%	83.9	84	83.2	82.3	(横ばい)													
評価	(原因) 全国的に高齢化が進み、本市でも同様の状況のため要介護認定者数の増加が見込まれるものの、介護予防事業(総合事業)の推進や、地域での介護予防活動により、令和5年度においても要介護等出現率の抑制が図られたことが要因と考えられます。				(%) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>83.9</td></tr><tr><td>R03</td><td>84.0</td></tr><tr><td>R04</td><td>84.0</td></tr><tr><td>R05</td><td>83.2</td></tr><tr><td>R06</td><td>83.0</td></tr><tr><td>R07</td><td>82.3</td></tr></tbody></table> 目標 達成度 (達成)					項目	値 (%)	基準	83.9	R03	84.0	R04	84.0	R05	83.2	R06	83.0	R07	82.3
					項目	値 (%)																	
基準	83.9																						
R03	84.0																						
R04	84.0																						
R05	83.2																						
R06	83.0																						
R07	82.3																						

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 生きがい活動の推進

指標①	生きがいを持っている高齢者の割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	%	94.2	93.1	93.6	→	
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の影響から、高齢者が生きがいを感じられる活動が制限されていることが、要因の1つと考えられます。 一方で、新型コロナウイルス感染症の影響有無にかかわらず、家族との団らん、友人等との交流・外出など社会性のある活動が実践できていることで、維持できているものと考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									 (横ばい)
										 目 標 達成度

基本事業02 介護予防の推進

指標①	介護保険の認定を新たに受けた市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	%	3.3	3.7	3.5	—	
評価	介護保険認定を新たに受けた人数/第1号被保険者数 (原因) 介護予防事業(総合事業)の推進や、地域での介護予防活動等により、要介護等出現率の抑制が図られたことが要因と考えられます。									 目 標 達成度
										 目 標 達成度

基本事業02 介護予防の推進

指標②	介護予防のための行動平均実践項目数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	項目	6.02	5.86	5.95	→	
評価	40歳以上の市民対象 (原因) 特に60～69歳における項目数が減少しており、定年延長による生活変化が要因と考えられます。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響から、外出控え等による数値の悪化が懸念されていましたが、定期的な運動教室の実施や自宅でできる介護予防の取組の発信により、微減が維持されているものと考えられます。									 (横ばい)
										 目 標 達成度

基本事業03 日常生活の支援

指標①	介護予防・日常生活支援総合事業サービスの利用者数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	人/年	572	744	811	—	
評価	(原因) 65歳以上人口に対する利用者割合は前期基準値取得年度の平成31年度は3.7%、令和5年度は5.1%となっています。新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛及び疾病等の影響により閉じこもりがちになり、フレイル状態や認知機能が低下した方が増えたことが要因と考えられます。									 目 標 達成度
										 目 標 達成度

□基本事業の成果状況と評価

基本事業04 地域包括ケアの充実

指標①	連携している在宅医療機関、介護事業所の数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	介護・障害福祉課	か所	70	79	77	80	☀ (横ばい)
評価	(原因) 普段から連携が取りやすくなるよう顔の見える関係づくりの一環として研修会を行っており、連携体制の構築に向けた働きかけを続けていることが要因と考えられます。									目標 達成度
										■ ■ (中)

基本事業05 認知症対策の推進

指標①	認知症の方への対応方法を知っている市民数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	介護・障害福祉課	人	3,551	4,016	4,273	6,901	☀ (横ばい)
評価	認知症サポーター養成講座受講者数の累計									目標 達成度
										■ ■ (低)

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 05 障害者（児）福祉の推進

施策の目指す姿

障害者（児）がその適性や能力に応じて、安心して暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	障害者（児）がその適性や能力に応じて安心して暮らしていると思う割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき						
	成果	課独自調査	上がると良い	介護・障害福祉課	%	62.8	—	67.1	➔	☀ (向上)						
評価	障害者計画策定時実施のアンケート結果				(%) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>62.8</td></tr><tr><td>R05</td><td>67.1</td></tr></tbody></table>					項目	値 (%)	基準	62.8	R05	67.1	目 標 達成度
	項目	値 (%)														
基準	62.8															
R05	67.1															
	（原因）支援を必要とする方へのサービスを適切に提供しており、特に自立支援給付については療育手帳と精神保健福祉手帳所持者を中心に、地域生活支援事業については身体障害者手帳所持者を中心に延べ利用者数が増えていることが要因と考えられます。 【前期基準値取得年度は、平成29年度です。】									■■ (高)						

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 自立支援の推進

指標 ①	自立支援給付の延べ利用者数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき														
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	人/年	1,172	1,388	1,497	—	— 目 標 達成度 —														
評 価	(原因) 障害者の人数が増えていることによって、全体的にサービス利用者数が増加していることが要因です。特に児童発達支援、放課後等デイサービス、共同生活援助(グループホーム)、就労継続支援B型の利用者数が増加しており、サービス利用に必要となる計画相談利用者数も増加しています。共同生活援助(グループホーム)については、いわゆる「親なき後」への備えとして需要が高まっており、近隣に事業所が増えていることが要因と考えられます。				(人/年) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>1,172</td></tr><tr><td>R03</td><td>1,388</td></tr><tr><td>R04</td><td>1,497</td></tr><tr><td>R05</td><td>1,497</td></tr><tr><td>R06</td><td>1,497</td></tr><tr><td>R07</td><td>1,497</td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	1,172	R03	1,388	R04	1,497	R05	1,497	R06	1,497	R07	1,497
					項目	値																		
基準	1,172																							
R03	1,388																							
R04	1,497																							
R05	1,497																							
R06	1,497																							
R07	1,497																							

基本事業02 地域生活支援事業の利用促進

指標①	地域生活支援事業の延べ利用者数				単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標のうごき														
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	人/年	10,002	10,013	10,514	—	— 目 標 達成度 —														
評価	(原因) 障害者の人数が増えていることによって、日常生活用具の利用者数が増加していることが要因です。特にストマ装具及び紙おむつの利用者数が増加しています。訪問入浴支援についても利用者が増えたため、延べ人数が増加しています。				(人/年) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>10,002</td></tr><tr><td>R03</td><td>10,013</td></tr><tr><td>R04</td><td>10,514</td></tr><tr><td>R05</td><td>10,514</td></tr><tr><td>R06</td><td>—</td></tr><tr><td>R07</td><td>—</td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	10,002	R03	10,013	R04	10,514	R05	10,514	R06	—	R07	—
	項目	値																						
基準	10,002																							
R03	10,013																							
R04	10,514																							
R05	10,514																							
R06	—																							
R07	—																							

基本事業03 児童発達支援の推進

指標①	適切な療育サービスが受けられていると思う保護者割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき														
	成果	課独自調査	上がると良い	介護・障害福祉課	%	100	100	100	➡															
評価	児童発達支援利用者対象のアンケート結果				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>100</td></tr><tr><td>R03</td><td>100</td></tr><tr><td>R04</td><td>100</td></tr><tr><td>R05</td><td>100</td></tr><tr><td>R06</td><td>-</td></tr><tr><td>R07</td><td>-</td></tr></tbody></table>						項目	値 (%)	基準	100	R03	100	R04	100	R05	100	R06	-	R07	-
	項目	値 (%)																						
基準	100																							
R03	100																							
R04	100																							
R05	100																							
R06	-																							
R07	-																							
	(原因) 児童の状態等を踏まえた個別支援計画を作成し、専門職による適切な支援を行うことで、児童の発達を促し、保護者の不安軽減にもつながっていることが要因と考えられます。				☀ (横ばい) 目標達成度 🏰 (達成)																			

基本事業03 児童発達支援の推進

指標②	発達相談を受けた児童の数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき														
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	人/年	181	154	163	—															
評価	児童発達支援センターと母子健康センターで発達相談（専門職相談）を受けた児童の数				（人/年） <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>181</td></tr><tr><td>R03</td><td>195</td></tr><tr><td>R04</td><td>154</td></tr><tr><td>R05</td><td>163</td></tr><tr><td>R06</td><td></td></tr><tr><td>R07</td><td></td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	181	R03	195	R04	154	R05	163	R06		R07	
	項目	値																						
基準	181																							
R03	195																							
R04	154																							
R05	163																							
R06																								
R07																								
	(原因) 児童発達支援センター太陽の家を中核とした相談支援体制の充実を図っています。児童の状況や特性を踏まえた支援を行う中で、通院治療や診断を受ける必要性等を勘案し、医療機関の受診を促していることが要因です。				目標達成度																			

□基本事業の成果状況と評価

基本事業04 各種手当・医療費等助成の給付

指標①	延べ特別障害者手当等給付件数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	件/年	935	919	901	—	
評価	(原因) 重度の障害のため新規に支給開始する方も増えていますが、死亡や転出、施設入所等により受給資格を喪失している方もおり、それらが年度途中に発生するため、給付件数が減少していることが要因です。				(件/年) 					目標 達成度

基本事業04 各種手当・医療費等助成の給付

指標②	延べ心身障害者医療費助成件数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	国保年金課	件/年	27,805	27,274	27,934	—	
評価	(原因) 受給対象者数は減少したものの、一人当たりの受診件数が増加したことが要因と考えられます。				(件/年) 					目標 達成度

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 06 社会保障等の充実

施策の目指す姿

社会保障制度等により、市民の生活基盤が確保されることで、誰もが安心して暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標①	—			単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
		その他	社会福祉課	—	—	—		—	
評価	国の政策等の影響が大きいため成果指標は設定していません。								---
									目 標 達成度

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 保険制度の適正な運営

指標①	国民健康保険税の現年度収納率				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	国保年金課	%	93.4	94.1	94.1	→	
評価	(原因) 低所得世帯に対する負担軽減措置などが要因と考えられます。									(横ばい) 目標達成度 (中)

基本事業01 保険制度の適正な運営

指標②	後期高齢者医療保険料の現年度収納率				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	国保年金課	%	99.2	99.5	99.5	→	
評価	(原因) 年金からの特別徴収により保険料を納付する被保険者の割合が高いことが要因と考えられます。									(横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業01 保険制度の適正な運営

指標③	介護保険料の現年度収納率				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	介護・障害福祉課	%	99.4	99.5	99.6	→	
評価	(原因) 介護保険被保険者数の増加に伴い、年金からの特別徴収により保険料を納付する被保険者数も増加していることが要因と考えられます。									(横ばい) 目標達成度 (達成)

基本事業01 保険制度の適正な運営

指標④	1人当たりの国民健康保険医療費				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	国保年金課	円/年	378,790	422,198	453,209	—	
評価	(原因) 前期高齢者の加入割合が高くなっていることが要因と考えられます。									目標達成度 (達成)

□基本事業の成果状況と評価

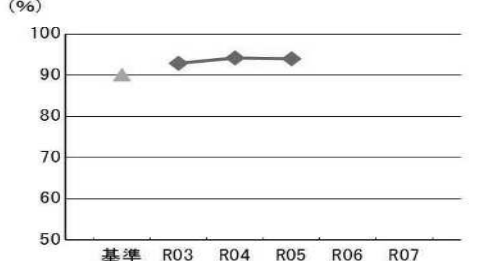
基本事業02 生活保護受給者（世帯）への自立支援

指標①	自立による生活保護廃止世帯件数（累計）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	社会福祉課	世帯	—	50	81	175	(横ばい)
評価	前期目標値及び実績値は、令和3年度を初年度とする5年間の累計				(世帯)					
	(原因) 令和5年度の廃止世帯102世帯中、就労や収入の増加に伴う廃止が31世帯であり、就労支援員及び担当ケースワーカーによる各種支援の効果が一定程度見られますが、保護受給者の大半が高齢者や疾病を持っている方であり、就労による自立を目指すことが困難な方々が増加していることが要因と考えられます。									
					目 標 達成度 (中)					

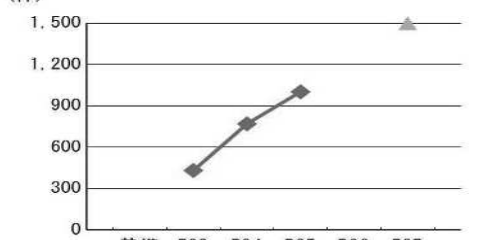
基本事業02 生活保護受給者（世帯）への自立支援

指標②	生活保護受給世帯数				単位	基準値	実績値(R04)	実績値(R05)	目標値(R07)	指標のうごき															
	代替	業務取得	その他	社会福祉課	世帯	571	632	670	—																
評価					(世帯) <table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>世帯数</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>571</td></tr><tr><td>R03</td><td>571</td></tr><tr><td>R04</td><td>632</td></tr><tr><td>R05</td><td>670</td></tr><tr><td>R06</td><td></td></tr><tr><td>R07</td><td></td></tr></tbody></table>						年度	世帯数	基準	571	R03	571	R04	632	R05	670	R06		R07		
	年度	世帯数																							
基準	571																								
R03	571																								
R04	632																								
R05	670																								
R06																									
R07																									
	(原因) 高齢世帯や傷病等による収入の不安定さを理由とした保護開始件数が増加したことが要因です。一方で、物価高騰の影響が懸念されましたが、各種生活困窮者向け緊急経済対策等による支援があったことで、急増には至っていません。				目 標 達成度																				

基本事業03 公営住宅の適正な運営

指標①	低所得者の入居割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	都市計画課	%	90.2	94.2	94	—	— 目標 達成度 —
評価	収入超過していない世帯の割合				(%) 					
	(原因) 新型コロナウイルス感染症の影響による収入減や収入超過世帯の入居者に退去を促したことが要因と考えられます。									

基本事業04 生活困窮者への自立支援

指標①	生活困窮者に係る支援により課題が解決した件数（累計）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき												
	代替	業務取得	上がると良い	社会福祉課	件	—	770	1,002	1,500	(横ばい)												
評価	前期目標値及び実績値は、令和3年度を初年度とする5年間の累計				(件)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>実績値</th></tr></thead><tbody><tr><td>R03</td><td>770</td></tr><tr><td>R04</td><td>1,002</td></tr><tr><td>R05</td><td>1,500</td></tr><tr><td>R06</td><td>1,500</td></tr><tr><td>R07</td><td>1,500</td></tr></tbody></table>						年度	実績値	R03	770	R04	1,002	R05	1,500	R06	1,500	R07	1,500
	年度	実績値																				
R03	770																					
R04	1,002																					
R05	1,500																					
R06	1,500																					
R07	1,500																					
	（原因）複数年度にわたる相談を継続的に実施していることや、新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響により、生活困窮に陥った方に対する様々な制度支援の適切な紹介を行ったことが要因と考えられます。				(中)																	

□基本事業の成果状況と評価

基本事業05 介護保険サービスの適切な利用

指標①	施設サービスを利用している市民数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	人/年	461	489	547	—	—
評価	(原因) 介護老人福祉施設の利用者が増加していることが 主な要因です。									目標 達成度
										—

基本事業05 介護保険サービスの適切な利用

指標②	介護サービス事業者・施設への実地指導件数（累計）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	介護・障害福祉課	件	—	14	20	25	☀ (向上)
評価	前期目標値及び実績値は、令和3年度を初年度とする5年間の累計									目標 達成度
	(原因) 新型コロナウイルス感染症の影響により、事業所 への立入りが制限されていましたが、施設への実地指導を 令和5年度から再開したことが要因です。									■■■ (高)

政策3

夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

(教育文化)

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 01 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

施策の目指す姿

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの学びを支える地域社会が形成されることで、子どもたちがいきいきと安全に暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの豊かな育ちを支え合う地域がつくられていると思う市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	38.6	36.2	34.1	➔	
評価	(原因) 学校・家庭・地域が連携して子どもの育ちを支える事業・地域行事などは再開されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、これらの取組の停滞が長期化した影響から、数値の向上に至っていないことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									 (横ばい)
										目標 達成度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

指標	学校・家庭・地域が連携した取組に参加している市民割合	単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
①	成果 市民アンケート 上がると良い 生涯学習課	%	16.4	12.7	12.6	➔	☁ (横ばい)
評価	(原因) 学校・家庭・地域が連携した取組は再開されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、取組の停滞が長期化した影響から、数値の向上に至っていないことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】						目標達成度 ■ (中)

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

指標	学校だけでは得られない知識や経験を地域住民から学ぶことができていると感じている児童の割合 (小学生)	単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
②	成果 課独自調査 上がると良い 生涯学習課	%	77.3	74.7	78	➔	☀ (横ばい)
評価	教育活動状況調査の結果 (原因) 学校・家庭・地域が連携した取組が再開されたことに伴い、様々な知識や経験を学ぶことができていると実感する児童が増加したことが要因と考えられます。 【前期基準値取得年度は、令和2年度です。】						目標達成度 ■ (中)

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

指標	学校だけでは得られない知識や経験を地域住民から学ぶことができていると感じている生徒の割合 (中学生)	単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
③	成果 課独自調査 上がると良い 生涯学習課	%	80.9	69.2	73.2	➔	☁ (横ばい)
評価	教育活動状況調査の結果 (原因) 学校・家庭・地域が連携した取組は再開されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、取組の停滞が長期化した影響から、数値の向上に至っていないことが要因と考えられます。 【前期基準値取得年度は、令和2年度です。】						目標達成度 ■ (中)

基本事業02 青少年の健全育成

指標	青少年育成活動事業の延べ参加者数	単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
①	代替 業務取得 上がると良い 生涯学習課	人/年	839	1,643	2,905	➔	☀ (向上)
評価	令和3年度から事業内容に大きな変更がありました。 (原因) 地域住民が小学校で放課後の空き教室などを活用して子どもに体験の場を提供する放課後子ども教室や、小中学校の授業などを支援する学校支援活動を増加させたことが要因です。 【前期基準値取得年度は、令和3年度です。】						目標達成度 🏰 (達成)

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 02 学校教育の充実

施策の目指す姿

児童・生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体が育まれることで、夢や希望が持てる充実した学校生活を送ることができています。

施策の成果状況と評価

指標①	学校生活が楽しいと思う児童割合（小学生）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	92.3	87.3	87.3	➔	
評価	教育活動状況調査の結果									(横ばい)
	(原因) 各校の工夫により、児童が前向きに学習や友達づくりに取り組んだことで、8割以上の高い水準で推移していますが、勉強が難しいと感じている児童割合が、学年が進むに従い増える傾向にあることが要因と考えられます。									目標達成度 (中)

指標②	学校生活が楽しいと思う生徒割合（中学生）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	81	82.2	87.3	➔	
評価	教育活動状況調査の結果									(向上)
	(原因) 各校の工夫により、学習や行事活動、部活動等に取り組むことができたことが要因と考えられます。									目標達成度 (達成)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 確かな学力の育成

指標①	授業がわかると答える児童割合（小学生）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	90.3	86.4	86.9	➔	指標のうごき
評価	教育活動状況調査の結果									（横ばい）
	（原因）ICT機器の活用など学習方法を工夫したことで高い水準で推移していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、教室で児童同士が行う学び合いの活動が制限されたことが尾を引いていることが要因と考えられます。									目標達成度 （中）

基本事業01 確かな学力の育成

指標②	授業がわかると答える生徒割合（中学生）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	80.7	79.3	84.1	➔	指標のうごき
評価	教育活動状況調査の結果									（向上）
	（原因）グループでの調べ活動や話し合いの機会を確保することで、より主体的に学習に取り組むようになったことが要因と考えられます。									目標達成度 （達成）

基本事業02 豊かな心の育成

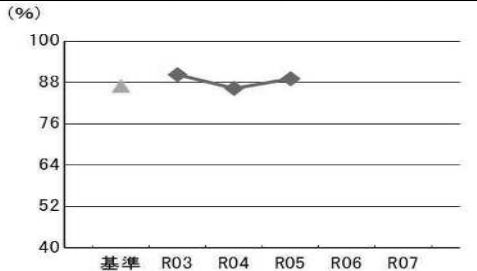
指標①	不登校出現率				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	下がると良い	教育総務課	%	2.4	3	5.5	➔	指標のうごき
評価	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査を基に算出									（低下）
	（原因）学校生活や家庭生活に対する悩みや不安を抱え学校不適応や登校渋りとなる児童・生徒が増加しています。また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したものの、軽い風邪等の症状でも大事をとって学校を欠席させる家庭が増え、年間30日以上欠席した児童生徒が小学校低学年を中心に増加したことが要因と考えられます。									目標達成度 （低）

基本事業02 豊かな心の育成

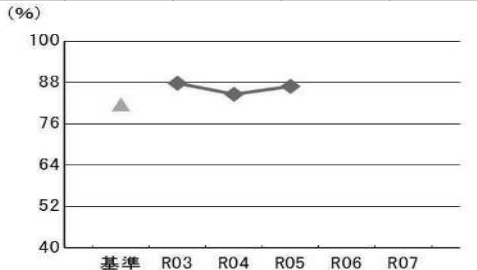
指標②	再登校率				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	教育総務課	%	19.8	33.7	37.7	—	指標のうごき
評価	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査を基に算出									目標達成度 （—）
	（原因）不登校児童・生徒に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる相談対応、学び支援教室等の別室登校による対応、心のケアハウスの運営など様々な支援を行ってきたことが要因と考えられます。 【令和3年度から指標のとり方を変更しています。】									目標達成度 （—）

□基本事業の成果状況と評価

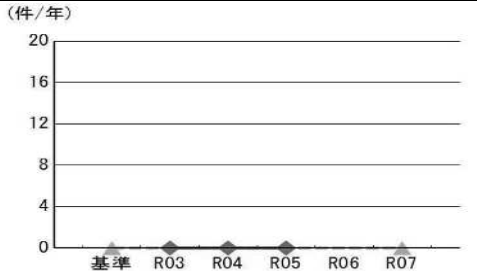
基本事業03 健やかな体の育成

指標①	基本的生活習慣を身に付けている児童割合（小学生）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	教育総務課	%	87.1	86.3	89.1	➔	 (向上)
評価	全国学力・学習状況調査の結果									 目標 達成度
	(原因) 朝食を毎日食べている児童の割合が増えたことや睡眠習慣が改善に向かったことが要因と考えられます。									 (達成)

基本事業03 健やかな体の育成

指標②	基本的生活習慣を身に付けている生徒割合（中学生）				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	教育総務課	%	81.7	84.6	86.9	➔	 (向上)
評価	全国学力・学習状況調査の結果									 目標 達成度
	(原因) 朝食を毎日食べている生徒の割合が増えたことや睡眠習慣が改善に向かったことが要因と考えられます。									 (達成)

基本事業04 教育環境の保全と運営

指標①	授業及び学校生活に支障をきたした件数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	下がると良い	教育総務課	件/年	0	0	0	0	 (横ばい)
評価										 目標 達成度
	(原因) 学校施設の維持管理に当たっては、定期的に施設整備の点検を行い、不具合発生前に修繕箇所を手当てするなど、きめ細かい対応を行ったことが要因です。									 (達成)

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 03 生涯学習の促進

施策の目指す姿

生涯を通じて学び、活躍できる機会や場があることで、生きがいを持って社会に参加し、心豊かに暮らすことができています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	生涯学習を行っている市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	71.3	71.4	74.7	➔	
評価	(原因) 公民館などでの講座や教室、サークル活動のほか、インターネットなどの多様な方法で学習できる環境が整ってきたことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									 (横ばい)
										目標 達成度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 学びと発揮の機会の確保

指標①	学習機会に満足している市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	88.3	86.8	88.1	→	
評価										(横ばい)
	(原因) 公民館などの公共施設での学習機会に加え、インターネットなど多様な方法で学習できる環境が整ってきたことにより復調傾向にあります。新型コロナウイルス感染症の影響前と比較すると、学習活動に参加する機会が減少していることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲です。】									目標達成度 (中)

基本事業01 学びと発揮の機会の確保

指標②	学習成果を生かしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	66.4	66.4	67.3	→	
評価										(横ばい)
	(原因) 地域活動や社会活動に学習成果を生かしている方が増加したことに加え、仕事・就職、趣味・健康・日常生活などで学習成果を生かしていると答えた方の割合が高かったことが向上の要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標達成度 (中)

基本事業02 文化芸術の振興

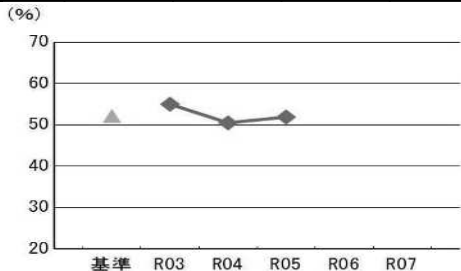
指標①	文化芸術の直接鑑賞をしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	53.3	57.8	62.8	→	
評価										(向上)
	(原因) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行や、文化センターの大規模改修が完了したことにより、文化芸術に関するイベントなどが多く開催され、鑑賞の機会が増加していることが要因と考えられます。									目標達成度 (達成)

基本事業02 文化芸術の振興

指標②	文化芸術活動をしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	18.6	18.9	20.5	→	
評価										(横ばい)
	(原因) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、文化芸術活動の機会が増加してきたことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標達成度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 生涯学習施設の保全と運営

指標 ①	生涯学習施設を利用している市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	52.2	50.5	51.9	➔	
評価	(原因) 市民会館の大ホール、練習室等の改修により、一部施設を4カ月間閉館したことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									(横ばい)
										目標 達成度 ■ (中)

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 04 市民スポーツ社会の促進

施策の目指す姿

運動・スポーツに親しむ機会や場があり、生涯を通じて、運動・スポーツの楽しさや感動を分かち合うことで、活力をもって暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	週1回以上運動・スポーツをしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	46.2	45.7	49.4	➔	
評価	(原因) ウォーキング、ランニング、体操など個人で運動を行う人の割合が高いことに加え、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、スポーツ施設で集団で運動・スポーツを行う人が増加していることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									 (横ばい)
										 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 スポーツ機会の確保

指標①	運動・スポーツ機会に満足している市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	81.7	83.3	83.4	➔	☀ (横ばい)
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の影響でウォーキング、ランニング、体操といった個人で取り組むことができる運動が定着し、集団で行う競技スポーツと併せ、多様な運動・スポーツの機会を持つことができていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標 達成度
										■ ■ (中)

基本事業01 スポーツ機会の確保

指標②	スポーツ等の教室・大会の参加者数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	5,330	7,131	9,117	5,500	☀ (向上)
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、社会体育事業やスポーツ団体の活動が活発に開催されるようになり、市民が参加する機会が増えたことが要因と考えられます。									目標 達成度
										🏰 (達成)

基本事業02 社会体育施設等の保全と運営

指標①	社会体育施設等の利用者数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	296,806	235,053	249,329	350,000	☁ (横ばい)
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の影響により、個人で運動・スポーツを行う人が増加しており、集団で運動・スポーツを行う人を主な対象とする社会体育施設等の利用者が減少していることが要因であると考えられます。									目標 達成度
										■ ■ (中)

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 05 文化財の保護と活用

施策の目指す姿

文化財が適切に保護・継承され、まちづくりに有効に活用されることで、市民が歴史と文化を身近に感じることができています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	市の歴史と文化を身近に感じている市民割合				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	文化財課	%	55.2	58.3	63.1	➔	
評価	(原因) 普及啓発活動や特別史跡多賀城跡復元整備事業の進捗に伴い、多くのメディアから情報発信されたことが要因と考えられます。									(向上)
										目標達成度 (達成)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 文化財の調査・保存の推進

指標①	適正に調査・保護された文化財の件数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	文化財課	件	188	187	180	—	—
評価	周知の埋蔵文化財包蔵地の届出等件数及び特別史跡内現状変更申請件数				(件)					目標達成度
	(原因) 令和4年度と同様に大規模な宅地開発により複数棟分の宅地をまとめて1件として届出されていることや、西部地区の住宅需要を反映していることが主な要因です。									—

基本事業02 文化財の活用促進

指標①	活用されている文化財の面積				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	文化財課	㎡	193,393	288,406	288,406	360,895	(横ばい)
評価					(㎡)					目標達成度
	(原因) 中央公園整備地の供用開始に伴い史跡の活用面積が増加したことが要因です。									(中)

基本事業02 文化財の活用促進

指標②	市内所在の文化財等訪問者数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	上がると良い	文化財課	人/年	135,009	130,498	155,893	170,000	(横ばい)
評価					(人/年)					目標達成度
	(原因) 各種イベントの増加や施設整備の進捗に伴い、市内文化財等へ訪問する機会が増加していることが要因と考えられます。									(高)

基本事業03 文化財の普及啓発

指標①	市内所在文化財等の平均認知項目数				単位	基準値	実績値 (R04)	実績値 (R05)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	文化財課	項目	8.06	7.6	8.62	→	(横ばい)
評価					(項目)					目標達成度
	(原因) 特別史跡多賀城跡復元整備の進捗や普及啓発活動により市内文化財等の認知度が向上したことが要因と考えられます。									(中)

